

最近のリート市場の下落について 新型コロナウイルス「オミクロン株」への警戒感高まる

2021年12月1日

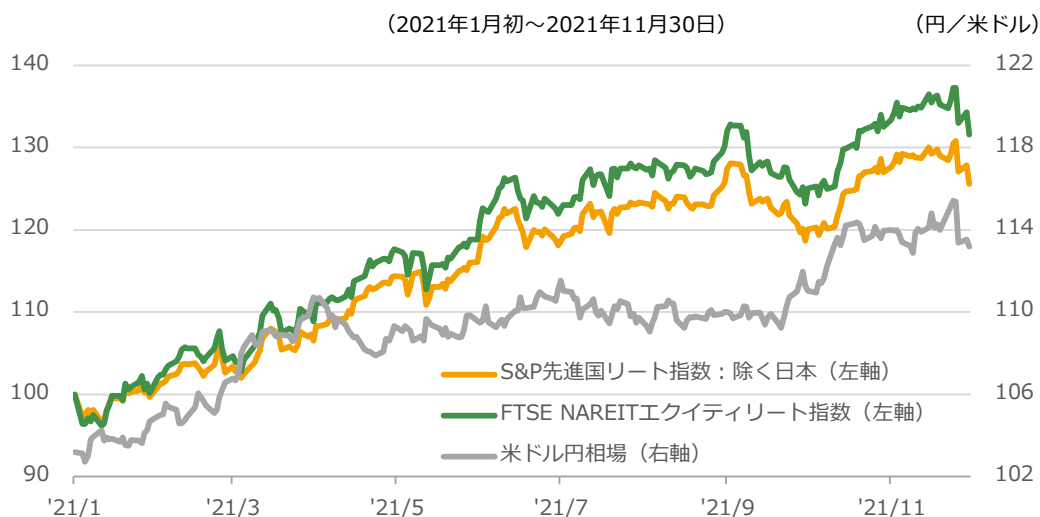
一旦は行動制限の再強化を織り込むような動きに

11月26日以降の世界のリート市場は、総じて下落しました。日本時間の26日早朝頃から、新型コロナウイルスの新たな変異株であるオミクロン株に関する報道が急速に増え始めると、金融市場ではリスク回避の動きが強まり、リート市場も売られる展開になりました。

オミクロン株に関し警戒感が高まっている理由としては、以下のような点があります。①WHO（世界保健機関）がデルタ株などと同じ最も警戒レベルが高い「懸念される変異株」に指定したこと。②欧州、豪州、アジアなど、短時間で世界的な拡大をみせていること。③既存のワクチンの予防効果が低いとの観測が出ていること。③に関しては、ワクチンを製造しているモデルナ社のCEO（最高経営責任者）が、オミクロン株に対してはワクチンの効果が低いとの見方を一部メディアに伝えたことが注目されました。ただ別の製薬会社は、新たなワクチンを100日以内に作る事が可能とのコメントを出しています。

業種別では、ホテル・リゾート関連や小売関連などが大きく売られる一方、倉庫関連やデータセンターなどが比較的堅調に推移するなど、行動制限の再強化を織り込むような動きがみられています。リート市場は株式市場に比べると行動制限の影響を受けやすい業種の割合が多い点は注意が必要ですが、株式市場と同様に昨年春の感染拡大初期を除けば、新型コロナによる下落の幅や期間は限定的なものにとどまっていることから、今回に関しても調整は一過性のものにとどまると考えられます。

リート指数と米ドル円相場の推移



※リート指数（いずれも米ドル建て、配当込み）は2021年1月初を100として指数化

(出所) ブルームバーグ

当資料のお取扱いにおけるご注意

- 当資料は投資判断の参考となる情報提供を目的として大和アセットマネジメント株式会社が作成したものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡しする「投資信託説明書(交付目論見書)」の内容を必ずご確認ください。
- 当資料は信頼できると考えられる情報源から作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。運用実績などの記載内容は過去の実績であり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。記載内容は資料作成時点のものであり、予告なく変更されることがあります。また、記載する指数・統計資料等の知的所有権、その他一切の権利はその発行者および許諾者に帰属します。
- 当資料の中で個別企業名が記載されている場合、それらはあくまでも参考のために掲載したものであり、各企業の推奨を目的とするものではありません。また、ファンドに今後組み入れることを、示唆・保証するものではありません。

大和アセットマネジメント